

プレスリリース

展覧会

塩田千春 私たちの行方
Chiharu Shiota—Where Are We Going?

2012年3月18日（日） ～ 7月1日（日）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

展覧会に関するお問い合わせ及び資料のご請求先：

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
展覧会担当：松村円、国枝かつら

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
Tel 0877-24-7755 / Fax 0877-24-7766
<http://mimoca.org/ja/press>

[展覧会概要]

展覧会名：塩田千春 私たちの行方

Chiharu Shiota—Where Are We Going?

会 場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

会 期：2012 年 3 月 18 日(日)－7 月 1 日(日) (106 日間) 会期中無休

開館時間：10:00－18:00 (入館は 17:30 まで)

主 催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

協 賛：株式会社資生堂

観 覧 料：一般 950 円 (760 円) 大学生 650 円 (520 円) (常設展観覧料を含む)

＊ () 内は前売り及び 20 名以上の団体料金

高校生以下または 18 歳未満・丸亀市内に在住の 65 歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

前売券販売場所：

[丸亀]あーとらんどギャラリー 0877-24-0927、オークラホテル丸亀 23-2222、おみやげ SHOP ミュー 22-2400、きままや 22-9361

[展覧会趣旨]

ドイツ、ベルリンを拠点に活動し注目を集めている作家、塩田千春の展覧会を開催します。塩田はこれまで物や場所に込められた人々の記憶、不在ゆえに強く感じる存在の感覚、日常を送るなかで生まれる不安や恐れといった感情を作品へと展開してきました。自らの内面から生じるこれらの感覚を突き詰めた結果、制作される作品は、作家個人の思いを超えて見る者を強く揺さぶります。

本展では、塩田が近年、新しく取り組んでいる「壁」をテーマにした作品を出品します。日本を離れドイツに住む塩田の経験から、国家や宗教といった個人が属する枠組みは他者や自分自身を理解する助けになると同時に、その人が何者であるかを知るうえで妨げとなるのではないか、私たちはそうした超えられない壁を内在しているのではないか、との思いで制作されたものです。また瀬戸内という当館の立地条件に触発された船を使ったインスタレーションやベルリンの子どもたちに行ったインタビューをもとに制作した映像作品なども発表。自分はどこから来たのか、今どのように存在しているのか、どこへ向かおうとしているのかを問いかけます。活躍を続ける塩田の現在をご紹介します。

[主な見どころ]

1. 塩田千春の現在を紹介

塩田は、現在までいろいろな感情や記憶を題材に作品を制作、発表してきましたが、並行して「自分とは何か」を長く考え続けてきました。本展は、この課題を取り上げた作品で構成し、初めて展覧会の主題にも掲げた、塩田の新しい展開を紹介するものです。

2. 地域の特性を取り入れる

「私たちの行方」は、展覧会全体を貫くテーマであると同時に、出品される作品のタイトルでもあります。船で往来することが身近な瀬戸内地方に建つ当館での展示にあたり、塩田はこの問いを船を使った壮大な作品に展開。美術館の近隣地域で使用されていた、それ自体から記憶や経験を感じ取ることができる2艘の古い木船を素材に、6メートルほどの高さから降り注ぐ水の中に船が浮かぶ作品を制作します。

3. ダイナミックな展示

大規模で圧倒されるような作品で知られる塩田は、当館でも広さ約 340 m²、天井の高さが 7 メートルの広々とした空間に、新作であり展覧会タイトルにもなった作品《私たちの行方》を展示します。また美術館を入ってすぐのエントランスホールにも、高さ約 11 メートルの壁面を活かして、「あいちトリエンナーレ 2010」でも注目を集めた、巨大なドレスに血管を思わせるチューブが巻きつく《不在との対話》丸亀バージョンが出品されます。

出品作品例の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、当館ウェブ上のプレス用ページ（<http://mimoca.org/ja/press>）よりお申込みください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際には必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。

[関連プログラム]

■ オープニング・コンサート

塩田千春の作品から着想した音楽を、目前に広がる未来へと踏み出そうとしている高校生がエレクトーンで奏でます。

演奏者：中條はるる（香川県立坂出高等学校音楽科 2 年生）

日時：3 月 18 日（日）10:00ー

場所：展示室内

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

■アーティスト・トーク

作家が出品作について、またドイツでの制作についてもあわせてお話しします。

講師：塩田千春（出品作家）

日時：3月18日（日）14：00－

場所：2階ミュージアムホール

定員：170名（先着順）

聴講料：無料

■ワークショップ「自分の船で世界中をまわってみよう」

展示を作家本人と見たあと、水に船を浮かべた新作インスタレーション内に、紙でつくった船を浮かべて世界中をまわります。

講師：塩田千春（出品作家）

日時：5月27日（日）10：30－12：00

場所：展示室内

対象：子ども～大人 ※小学校未就学児は保護者同伴。その場合保護者も参加者。

定員：40名

参加料：無料

申込締切：5月9日（水）当日消印有効

申込方法：ワークショップ名、名前（ふりがな）、小中学生は学年、〒住所、電話番号を書いて、ハガキもしくはメール（workshop@mimoca.org）で美術館ワークショップ係まで。

・応募者多数の場合は抽選し、その結果は〆切後全員にハガキでお知らせします。家族、お友達同士の場合、1枚のハガキもしくはメールで一緒に申込ができます。

・メールの場合、募集〆切日の翌日までに受付完了の返信メールが届かなければご連絡ください。

・〆切後でも定員に満たない場合は受け付けますのでお問い合わせください。

■キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（松村円、国枝かつら）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の日曜日（ただし3月18日をのぞく）14:00－

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込：不要（1階受付前にお集まりください）

【作家略歴】

塩田千春 1972 年大阪生まれ 1996 年からベルリン在住

(<http://www.chiharu-shiota.com/jp>)

1992-96 京都精華大学洋画科

1993-94 オーストラリア国立大学 (ANU) キャンベラスクールオブアートに交換留学生として留学

1996 ハンブルグ美術大学 (H f b K) に入学

1997-99 ブラウンシュバイク美術大学 (HBK) マリーナ・アブラモヴィッチに師事

1999-03 ベルリン芸術大学 (UDK) レベッカ・ホーンに師事

■過去 3 年間の主な個展

2009

「不確かな不安」 ガレリエ クリストフェ・ゲーランド (パリ、フランス)

「不在との対話」 ケンジタキギャラリー東京 (東京)

「流れる水」 入善町下山芸術の森 発電所美術館 (新川入善、富山)

「長い一日」 ロットヴァントギャラリー (チューリッヒ、スイス)

2010

「塩田千春 新作展」 ガレリエ ニエヴェ・フェルナンデス (マドリッド、スペイン)

「ひとつの場所」 ハウンチ オブ ヴェニソン (ロンドン、イギリス)

「壁」 ケンジタキギャラリー (名古屋、愛知)

「不在との対話」 ガレリエ クリストフェ・ゲーランド (パリ、フランス)

2011

「静けさの中で」 デタッチトゥ (ホバート、オーストラリア) キュレーター: オリヴィエ・ヴァレンヌ

「記憶の家」 ラ メゾンルージュ (パリ、フランス)

「本の記憶」 ゲヴァスティ財団 (ヴェニス、イタリア)

協力: ハウンチ オブ ヴェニソン キュレーター: ジェイムス・パットナム

「塩田千春 ドローイング展」 ケンジタキギャラリー東京 (東京)

■過去 3 年間の主なグループ展

2009

「Cherchez la femme」 ガレリエ ニエヴェ・フェルナンデス (マドリッド、スペイン)

「椿会展 2009 Trans-Figurative」 資生堂ギャラリー (東京)

「愛についての 100 の物語」 金沢 21 世紀美術館 (金沢、石川)

「タトゥー」 舞台美術〈原作: デア・ローア 演出: 岡田利規〉新国立劇場 (東京)

「心の中を歩く」 ヘイワードギャラリー（ロンドン、イギリス）

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2009」 （十日町、新潟）

「世界はあなたのもの」 ルイジアナ現代美術館（フムレベック、デンマーク）

「第3回モスクワビエンナーレ」（モスクワ、ロシア）

「二人展 塩田千春+ゲゴ」 Goff + Rosenthal Gallery（ニューヨーク、アメリカ）

2010

「ホームレスホーム」 シーム美術館（エルサレム、イスラエル）

「椿会展 2010 Trans-Figurative」 資生堂ギャラリー（東京）

「瀬戸内国際芸術祭 2010 -アートと海を巡る百日間の冒険-」 豊島（高松、香川）

「あいちトリエンナーレ 2010 -都市の祝祭-」 名古屋市美術館（名古屋、愛知）

「メディアシオン ビエンナーレ -ビヨンド メディアシオン-」 ポツナム国立美術館
（ポツナム、ポーランド）

「エクスペリエンス #1 -オーラー-」 クリストフェ・ゲーランド ポップ・アップギャラリー
（ベルリン、ドイツ）

「次から次へ」 ラ カーサ エンセンディダ ミュージアム（マドリッド、スペイン）
キュレーター：フローラ・フェアバイアー

2011

「バイ バイ キティー!!! -Between Heaven and Hell in Contemporary Japanese Art-」
ジャパンソサイエティギャラリー（ニューヨーク、アメリカ） キュレーター：
デイビッド・エリオット

「松風」 舞台美術 共同：ピア・マイヤー＝シュリーヴァー 〈演出：サシャ・ヴァルツ 音
楽：細川俊夫〉モネ劇場（ブリュッセル、ベルギー） / ベルリン国立歌劇場（ベル
リン、ドイツ）

「メル現代美術国際ビエンナーレ」（メル、フランス）

「Inner Voices-内なる声」 金沢 21 世紀美術館（金沢、石川）

「過去の存在」 アレキサンダー・オクス ギャラリー（北京、中国）

「Lost in Lace」 バーミンガム ミュージアム アンド アートギャラリー（バーミンガム、
イギリス）

「はかなさ」 アーント（ベルリン、ドイツ）

■主な受賞歴など

2002 フィリップモリス K.K.アートアワード 2002 大賞

2003 ポーラ美術振興財団国際交流助成

2005 文化庁芸術家在外派遣研修員（3年）

2008 平成 19 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞

平成 19 年度「咲くやこの花賞」美術部門

2009 京都精華大学 卒業生功労賞
Docks Art Fair モンブラン賞

■主なパブリックコレクション

資生堂アートハウス（静岡）

金沢 21 世紀美術館（石川）

国立国際美術館（大阪）

東京国立近代美術館（東京）

パスクアートセンター（ピール／ビエンヌ、スイス）

フライブルク現代美術館（フライブルク、ドイツ）

フィンランド現代美術館 KIASMA（ヘルシンキ、フィンランド）

ホフマンコレクション（ベルリン、ドイツ）

【展覧会等のお知らせ】

■ 同時開催 常設展

猪熊弦一郎展

会期：2012 年 3 月 18 日（日）－7 月 1 日（日） 会期中無休

■ 次回開催 企画展

ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー

会期：2012 年 7 月 15 日（日）－9 月 23 日（日） 会期中無休